

『クロアゲハをそだてて』

ハートフォード補習授業校（コネチカット州）小一

わたしのクラスでは、ミセス・マティカンと、ちょうちよのよう虫をみんなで、そだてていました。小さなカップの中に入っていた、小さくてくろいとげとげのけ虫は、オレンジいろのオオバマダラになりました。

ある日、わたしのお母さんが、にわでとったパセリにたくさん小さな虫のたまごを見つけました。なん日かすると、そのたまごから小さな十ぴきのけ虫が生まれました。

「おかあさん、これちょうちよになるよね。」

とわたしはいいました。十ぴきのけ虫がどんなちょうちよになるのかとおもうと、わくわくしました。それとも、もしがだったらいやだなあ、ともおもいました。け虫たちは、すこし大きくなるときみどりにくろいもようのころころふとったからだになりました。

まい日大きくなる十ぴきをかかさつていましたが、一ぴきがにげてしまいました。どんなにさがしても見つかりません。一ぴきでえさもなかまもいなくて、どんなにさびしいおもいしているのか、とおもうと、かなしいきもちになりました。なん日かして、だいどころのすみっこで、しわしわになってしんでいるけ虫を見て、やっぱりいえでそだてるのはやめて、クラスのみんなとけ虫たちをそだてることにしました。

けむしたちは、まい日すごいはやさでパセリをたべました。わたしは、一ばん大きくてふとっているけ虫が、いつさなぎになるのかがまちどおしくて、たまりませんでした。

あるあさ、学校につくと、くろいちょうちよが大きくはねをひろげて、かごにつかまっているのが見えたときわたしは、「やった！」とこころの

中でさげびました。ミセス・マテイカンが、「これは、クロアゲハよ。」とおしえてくれました。クロアゲハは、先生のゆびについた花のみつをすいました。わたしは、クロアゲハに、「がんばってとんでね!」といいました。ちょうちよつて、とてもかわいいなど、おもいました。